

大心とは その心を大山にし、 その心を大海にし、偏なく党なき心なり

道元禪師『典座教訓』

大心だいしんとは、動かざること山の如き強い意志で、寛大なること海の如く広くゆつたりとして、また、左右いずれにもくみせず、片寄りのない生き方、考え方に対する訓えであります。

因みに宗祖永平えいへい道元どうげん禪師ぜんじの教示きょうしに喜心きしん・老心ろうしん・大心だいしんの三心さんしんの訓えがありますが、これはその一つであります。これを現代的にいえば、奉仕（ボランティア活動等）を喜んでする心を喜心きしんといいます。次に父母の子供に寄せる思いは、大慈・大悲の親切な心であり、生き方であります。これを老心ろうしんといいます。

以上、大心とそれに関する三心の概要を誌しましたが、これらの訓えは今日のストレスの多い毎日の私たちにとつての生き方、考え方にも大きな指標となることを改めて考えたいと思います。

本年も早いもので晩秋を迎え稔りの時ですが、初冬・歳末と寒い候となります。月日の過ぎ去ることの早いのにくらべて、何をなしたか、何を考えつつ日々の暮らしを続けているか、反省するよい時期でもあると思いますがいかがでしょうか。

このようなあれこれに思いをいたしながら、健康で積極的にお互いに生き続けることこそ、大心の訓えであり、三心の教示であると思います。平和な日本の現状を余り考えず、とかく消費文化に流れやすい私たちですが、こうした時こそ安全・安心・安定の充実した生活を考えるよい折りと思います。

改めてこの訓えを生きる一つの指針として、日々の生活の多幸と発展を祈念したいと思います。

解説

僧(典座)の心構えについて書かれています。本文に「典座は伴(たすき)を以って道心と為す」とあります。食事を作る者にとって材料を調理したり、食器を整えるという行為全般が仏道修行そのものであることが示されています。

また、内容は典座の心構えについて説かれてはありますが、もし私たちがそこに示された教えを心において事に当るならば、何事を為すにもそれが仏道修行となります。そのような教えを、この文章から汲み取って頂きたいと思います。

大心とけ

その心火山にし
その心大海にし
偏なく覚なきハ

心なり

永平 道元禪師

曹 洞 宗

神奈川県第二宗務所

第五教区 布教部・出版部